市政ニュース

～一枚の絵画からつながった縁～
画家加藤美代三さんの作品「様似岬」を様似町に寄贈

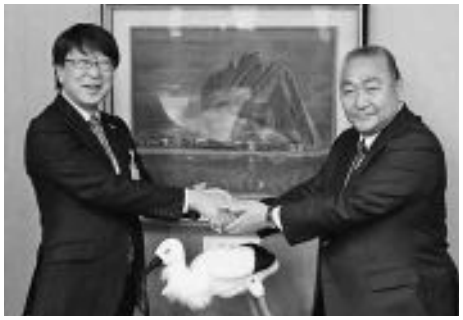
「様似岬」は、本市出身の日本画家加藤美代三さんが北海道様似町で描き、市民会館の開館（昭和46年）を記念して寄贈された作品で、文化ホールに展示していたものです。このたび同作品を、画題となった故郷、様似町に寄贈することになり、平成27年12月21日、様似町長の坂下一幸さんが本市を訪れました。

これは、昨年9月、坂下町長が、市民会館で開かれたアジア太平洋ジオパークネットワーク（APGN）山陰海岸シンポジウムに出席した際、偶然作品に出会ったのがきっかけで、本市に寄贈の申し出をされていたものです。

絵に描かれている場所は、江戸時代に幕府の拠点「シャマニ（様似）会所」が置かれていた様似町発祥の地です。様似町の活性化に役立てられるということから、加藤美代三さんの遺族にも快く同意をいただき、寄贈することになりました。

様似町は、本市と同じAPGNの構成市町で、同シンポジウムの2日後には、この岬を含むアポイ岳ジオパークが、国内8カ所目の世界ジオパークに認定されました。

坂下町長は「この絵と出会ったことで、コウノトリが世界ジオパーク認定を運んでくれたように思う。これからもこの出会いと縁を大切にしていきたい」と話しました。


▲「様似岬」の前で握手する中貝市長と坂下町長（右）

～とよおかで結ばれたおふたりへ～
「コウノトリ育むお米」で祝福

平成28年から、市役所で直接婚姻届を提出した方に「コウノトリ育むお米（減農薬）パックごはん」などが入った祝袋を贈呈しています。

この企画は、平成32年までの5年間、JAたじまと環境創造型農業を推進する本市が共同で実施します。お米の費用は全てJAたじまが負担します。

祝袋には、中貝市長のお祝いメッセージとコウノトリのポストカードの他、コウノトリ育むお米の購入優待券（たじまんま（八社宮）限定）や、JAたじま組合長のメッセージも入っています。

人生の節目となる婚姻日を、コウノトリ育むお米でお祝いします。

▲コウノトリ育むお米（祝袋）

～対話と共感の市政を推進～
「～市長と語る～女性いきいきトーク」開催

平成27年12月15日から1月12日まで、市内の6会場（豊岡・城崎・竹野・日高・出石・但東）で、女性の視点を市のまちづくりに生かすため「～市長と語る～女性いきいきトーク」を開催しました。

子育て、子どもの医療費、若者の就労、婚活、公共交通などについて多くの意見が出されました。

▲市長と意見交換する参加者（豊岡稽古堂）

～主な市政の動き～

【12月】

15日・「～市長と語る～女性いきいきトーク」（豊岡、17日・日高、21日・竹野、1月7日・出石、8日・城崎、12日・但東）
・豊岡市図書館未来プラン検討会議
16日・豊岡市企業ガイドブック2017ジョブナビ豊岡発行
17日・遼寧（りょうねい）省（中国）視察団来訪（～19日）
19日・保護者のための就職活動勉強会
21日・平成27年豊岡市政10大ニュース発表
・様似町（北海道）に絵画寄贈
28日・市役所仕事納め式

【1月】

4日・市役所仕事始め式
・賀詞交換会
7日・城崎消防団出初式（10日・豊岡・竹野・但東、11日・出石）
8日・ゴダイ㈱と「災害時等における救助用物資の供給等に関する協定」締結
9日・市消防本部消防出初式
11日・豊岡市成人式

～図書館の役割を再検討するために～
「豊岡市図書館未来プラン検討会議」を開催

平成27年12月15日、10年後の図書館像を描いた「図書館未来プラン」を策定する第1回「豊岡市図書館未来プラン検討会議」を開催しました。

この会議は、市立図書館が「智の蔵」としての本来の機能を持ち、さらに時代の変化に対応した新たな機能を持ち併せた図書館のあるべき姿を検討します。

委員は、学識経験者、小学校教諭、旅館経営者、NPO法人代表、市外からの定住者など、さまざまな分野の11人からなり、座長に桃山学院大学教授の山本順一さんが選任されました。

初会議では、座長の山本さんが「豊岡市立図書館の将来像オプション」と題した講義を行った後、委員が意見交換しました。

今後、図書館の現状を評価・分析しながら、市民参画ワークショップやアンケートを実施し、検討を進めます。

▲座長の山本教授の講義

～一冊あればすぐに始められる 健康維持ときずなの向上～
「玄さん元気教室まるごとヒント集」が完成

「玄さん元気教室」は、区の集会施設などで、身近な仲間と楽しく身体を動かす健康づくりプログラムです。本市オリジナルの「元気もん体操」を収めたDVDを使用して、現在、市内の80カ所以上の集落や団体で、自主運営されています。

このたび、さらなる拡大に向け、教室の立ち上げから運営、継続までのノウハウをまとめた「玄さん元気教室まるごとヒント集（A4カラー36ページ）」を作成しました。

監修は、元気もん体操を指導している熊本大学教授の都竹茂樹（つく）さん。参加者の写真やコメントをたくさん使用した分かりやすい内容で、これさえあれば、すぐに教室がスタートできます。

地域に〝健康〟と〝きずな〟をもたらす「玄さん元気教室」。本市は、平成32年度までに235カ所で2700人の参加を目指します。

▲「玄さん元気教室まるごとヒント集」を監修した都竹教授（左）と玄武岩の「玄さん」

中貝市長の徒然日記 ㊼
ドクヘリがもたらすもの

円山川の歩道橋で中学生の男子3人とすれ違いました。「あ、市長だ」「はい」「握手して」「ほい」「写真撮ってもいいですか？」「もちろん」

その別れ際。「市長、豊岡をかっこよくしてください」

豊岡が好きだという気持ちが伝わってきました。同時に、豊岡をどのようなイメージでとらえているのかも。

都市は優れていて、田舎は劣っている。私たちは長い間、その自己イメージの中に自らを閉じ込めてきました。

先日、見舞いで豊岡病院に行ったときのこと。ちょうどドクターヘリが飛び立ちました。平成26年度の出動1570回。鳥取県、但馬、京都府北部をカバーし、日本一の出動回数です。時速200㎞。但東でも、ひとっ飛びです。

平成22年の導入前、豊岡病院の救急の医師は4人でした。今、19人です。救急医療の腕を豊岡で磨きたいという若い医師がやってきます。

医師の増を受けて、ドクターカーも但馬内で運行しています。但馬3市2町が費用を負担し、平成26年度は1573回の出動でした。救急車とドクターカーがほぼ同時に出動しますので、医師のほうが先に着くこともあります。

消防に119番通報が入ってから病院搬送までの平均時間が公表されています。平成26年度、全国39分、兵庫県37分、豊岡市消防本部34分。で、東京都は、55分です。

ドクターヘリ、ドクターカーでは、出動先で医師・看護師が手当てをします。その手当てまでの豊岡の平均時間は、ドクターヘリ23分、ドクターカーは19分！です。

命のリレーも重要です。救急の医師、看護師、消防の救急救命士の連携と技を競う全国大会で、我が豊岡チームが優勝したこともあります。日頃の訓練と実践の成果です。

救急医療の迅速性に関しては、豊岡は日本で最も安全なまちかもしれません。

ほんの一例ですが、これって、かっこよくないですか？